

京畿道安城市の牛農場0型口蹄疫感染による「緊急防疫措置と脆弱分野の管理強化」

出典URL：

<http://www.mafra.go.kr/mafra/293/subview.do?enc=Zm5jdDF8QEB8JTJGYmJzTjGbwFmcmEIMky2OCUyRjMxOTY0NSUyRmFydGNsVmllldy5kybyUzRmJic0NsU2VxJTNEJTI2cmdzRW5kZGVtdHllM0QIMjZiYnNpcGVuV3JkU2VxJTNEJTI2cmdzQmduZGVtdHllM0QIMjZwYXNzd29yZCUzRCUyNnNyY2hDb2x1bW4IM0QIMjZyY3cIM0QxMCUyNmlzVmllld01pbmUIM0RmYWxzZSUyNnBhZ2UIM0QxJTl2c3JjaFdyZCUzRCUyNg%3D%3D>

（仮訳）

- 農林畜産食品部（長官：イゲホ、以下農食品部）は、1月28日に京畿道安城市の牛農場で申告された口蹄疫の疑似患畜は、精密検査の結果、1月29日に口蹄疫と最終確定され、血清型は0型だと明らかにした。
- 政府は口蹄疫がこの冬に入って初めて発生したが、大規模な移動が予想される旧正月連休を数日後に控え、今後3週間の対応が口蹄疫拡散の分岐点になると判断している。
- 防疫措置が強化されたにもかかわらず口蹄疫が発生したことを受け、政府はまず、緊急措置として、疑い申告があればすぐに迅速な初動防疫を実施し、口蹄疫感染を想定した先制的防疫措置を推進する計画である。

【措置した事項】

- ①牛の農場で疑い家畜の申告があった1月28日、農林水産食品部長官主催の緊急防疫対策会議と家畜防疫審議会を開き、口蹄疫の感染前でも疑い申告農場の牛（120頭）は、緊急殺処分するように措置し、
 - ・ リスクの高い発生農場の半径500m以内の農家（9戸、603頭）と出荷車両が出入りした疫学関連農家（23戸）を対象に臨床観察を緊急実施した結果、異常な症状はなかった。
 - ・ 現在、この農家は、採血による精密検査を進めており、その結果に基づいて関連防疫措置を実施する計画である。
- ②京畿道全域のほか、安城市との境界が接している忠清南道、忠清北道、大田広域市、世宗特別自治市を対象に1月28日（月）20時30分から1月29日（火）20時30分までの24時間の間、一時移動停止命令を発動して一斉消毒を実施している。
- ③発生農場の半径500m以内の農家には昨日、緊急ワクチン接種を完了し、本日中に半径3km以内の農家（89戸、4900頭）の偶蹄類の接種も完了する計画だ。
 - ・ 安城市全体の偶蹄類（44万頭）だけでなく、隣接する6つの市郡の牛・豚（139万頭）対象緊急ワクチン接種も可能な限り早い時間内に終える予定である。

【追加措置】

①全国偶蹄類の農場の臨床予察を強化する一方で、

- ・ 自治体・農協の広域防除機と軍提督車両など利用可能なすべてのリソースを総動員して、全国の畜舎、畜産関係施設を集中消毒し、農場出入り車両のGPSが動作するかどうか、消毒の実態などを綿密に点検する計画だ。

②また、発生農場の半径500m以内の農家は、採血による精密検査の結果に基づいて、予防的殺処分の実施等、防疫管理強化措置を検討する予定である。

③本日8時30分から首相主催の全国の自治体合同点検会議を開催し、防疫状況などを点検し、

- ・ これから農食品部長官主催で防疫対策会議を毎日開催して防疫状況を共有し、強力な防疫措置の履行に支障がないように管理していく計画である。

□ 口蹄疫ウイルスは潜伏期間が14日に達し、非常に高速に伝播するため、農家単位の徹底したブロック防疫措置と果敢かつ迅速な防疫措置がこれまで以上に重要である。

□ 農食品部キム・ヒョンス次官は「旧正月連休を数日後に控えた現時点で口蹄疫が発生しないように政府、畜産農家、畜産関係者、地方自治体の公務員と一緒に隙のない防疫体制を維持する。」、

○ 「口蹄疫の拡散を早期遮断するため、偶蹄類の繁殖農家だけでなく、関連従事者、自治体、国民の積極的な理解と協力を要請する」と明らかにした。